

生徒の自己理解を促す 共感的な対話

学校生活において、日常的に生徒と関わる教員が、発達援助の視点を持ちながら、生徒の気持ちを十分に受け止め、共感的に対話を積み重ねていくことで、生徒は「自己肯定感」を高め、「自己理解」を深めていきます。また、生徒と対話を積み重ねることによって、教員の生徒理解も深まります。学校生活の様々な場面において積極的に生徒と対話しましょう。



本冊子は、教員向けのヒント集です。段階を踏みながら対話を深められるよう構成しています。ポイントごとに対話例や応答例、問いかけ例を紹介しています。

第1段階「対話の土台づくり」
(対話を通して「自己肯定感」を高める)

第2段階「発達援助的なかかわり」
(対話を通して「自己理解」を深める)

☆総合教育センターのホームページからダウンロードできます。是非ご活用ください。
<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp>



<共感的な対話>

- 「答える」のではなく、気持ちに「応える」
- 「受容」+「問いかけ」で、生徒自身が答えを出していく



- 生徒が語るストーリーを前向きな捉えに再構成する手伝いをする
- 生徒自身の中に「気づき」や「変化」を促し「力」や「可能性」を引き出す

<共感的な対話のキーワード>



<第1段階：対話のねらい>

対話を通して、自分の思いや考えを誰かと共有する体験を積む。



「わかってもらった」という思いや、「そう思っているんだ」と思える体験から、『自信』を持ち、『自己承認』できる。

<第2段階：対話のねらい>

対話を通して自分に向き合い、「自分の考え方の傾向」や「自分の得意・不得意」を知る。



『自己理解』を深めていく。

<第1段階：対話のポイント>



- ① 話題は何でもあり
- ② 生徒の話をも肯定的に認めながら聴く
- ③ 「受け止めた」というメッセージを伝える
- ④ 語られる言葉の背後にある感情を汲み取る
- ⑤ 話題の側面にも目を向ける

<第2段階：対話のポイント>



- ① 困りを“十分に共有”してから、今できることを一緒に考えていく
- ② 生徒が使った言葉を使う
- ③ 生徒の内面を訊く(問いかける)
- ④ 話題の明確化・焦点化
- ⑤ リフレーミング(違う枠組みで見る)
- ⑥ とりあえずの方策を具体的に確認し、支持する



ここが大切《対話の基本》

受容

傾聴

共感

安心して語れる場所を提供する

- 傾聴 ・ 真摯に聴く。支持しながら徹底的に聴く。
・ 非言語的メッセージを活用しながら、丁寧に聴く。
(表情、うなずき、あいづち、声のトーンなど)
- 共感 ・ 自分があたかも生徒の立場におかれたごとく感じる。
・ 語られる言葉を当然のこととして受け止めていく。
・ ペースを合わせる。(声のトーンや話す速度など)
・ 思いを汲み取って、返していく。
- 受容 ・ 考え(思考)や気持ち(感情)は受け止めるが、行為や行動とは区別する。(すべてを受け入れることではない)